

【Starkval the Weaponthane】

説明

解説

神殿

嵐の神殿。小神。

称号、職能

ステッドを守るフュルドの指揮者にして、嵐の部族の“戦近侍”。雷鳴の兄弟の一柱。

概略

「初めての立法」においてスタークヴァルは近侍としての主張をし、ヴィングコットが貴人と呼ばれるように、デュレヴがカルルと呼ばれるように、近侍としての身分を手に入れた。彼こそは戦をその本分とする戦近侍であり、オーランスがトゥーラ防備を固めんとイーディン峡谷に設けた「イーディンの壁」の頭となった。

そうしてたとえ嵐の領域に巨人が、ウズが、モスタリが攻め込んできても、何れもオーランスより与えられた、「はらわたを焼き焦がすもの」という名のスピア、「白柄」という名の剣、「スピア返し」という名の鎖帷子、これらの武具で身を固め、エルマルより与えられた「虹の馬」ヘンラーを傍らにトゥーラを守り続けた。

オーランスのカルトとしては戦の群に根ざしたカルトである。

異界

イーディンの峡谷にはスタークヴァルの衛兵所「イーディンの壁」がある。

組織

相、カルト

すべての父オーランスの下位カルト。

参考文献

- ・『Thunder Rebel』 p.237、216-217